

## 医師とのうまい付き合い方講座アンケート

(2025. 9. 22)

① 今日の研修はどうでしたか？当てはまるものに○をつけてください。

1. 良かった 19人 2. まあ良かった 12人 3. あまり良くなかった 0 4. 良くなかった 0

- ・先生からの説明でご家族が理解できなかつたり、後で思い返すときに文書で今後のことを伝えると伺い、とてもありがたいと思いました。
- ・医師との関わり方に悩んでいたので大変良い研修でした。
- ・普段言いづらい医療との連携について他ケアマネとの話が聞けた。
- ・事例に対して色々な意見を聞くことができた。
- ・まだ経験が浅いこともあり医師との連携にはまだ苦手意識あるが、今までしていたことを地道に続けることの大切さと他の皆様の実践について聞くことができ良い機会になった。
- ・介護と医療のそれぞれの強みをしっかりと受け止める。
- ・医師の性格を知り、対応力を身に着けることの大切さ学ぶことができた。
- ・医師との関わり方について他の方の話を聞くことが出来てよかった。
- ・皆様の経験談を伺うことができ、大変有意義な時間でした。
- ・知識を共有できたと思う。
- ・楽しく聞かせていただいた。医師のタイプ、緊張の場面があった際、思い出して肩の力が抜けそう。
- ・病院（医師側の目線）も知り、対応することを考えられ、難しいグループワークでしたが意見を聞けた。
- ・先生方の中でも対応の仕方が違うことを学んだ。
- ・色々な方の意見が聞けてとても参考になった。
- ・他事業所での医師との付き合い方の工夫を聞くことができてよかった。
- ・10月から居宅のケアマネに異動になる私にとって大変勉強になりました。ケアマネとしての立場からの話、医師の立場からの話の双方を聞くことが出来ました。

② 本日の研修を今後の医師との連携に活かすことはできそうですか？

1. できる 16人    2. まあできる 15人    3. あまりできない 0    4. できない 0

- ・先生からのお話を伺い、ケアマネが気が付かないことがたくさんあるとわかりました。この研修で学んだことを活かしていきたいと思います。
- ・すぐに活用できると思いました。
- ・医師・病院も福祉に歩み寄る姿勢をもってほしい。
- ・医師は忙しい、変わらないものとして話をしているが、その前提も見直していくべきと思う。
- ・先生の特性に合わせてということは意識していたが、「難しい医師の特徴」は勉強になった。
- ・先生の個性に合わせて連携してみたい。
- ・一人では何もできないので多くの人と連携し、助け合いながら支援を行う。
- ・グループワークで出たことを実際に試してみる。
- ・頑張ってみたいと思う。
- ・参考にさせていただきます。
- ・改めて要件を明確に伝える。
- ・文書で伝える方法の活用をしていきたい。
- ・先生との関りについてまだまだ経験不足なので活かせるようにがんばりたい。
- ・「教えてください」の姿勢、感謝の気持ちを忘れずに活かしていきたい。
- ・ケアマネだけで医師と本人の調整をするのではなく、薬剤師や訪問看護師などと連携しながら。
- ・アポを取ってから医師に会いに行くこと、結論から話すこと、紙面に書いて行くこと等、皆さんが工夫していることを学びました。私も実践していきたいです。

③ 医師との連携において、ご自身が大切にしていること工夫していることがあれば教えてください。

- ・困った時だけでなく、連携が取れるように常に信頼関係を構築する。
- ・本人が困っていることを先生と共有することです。
- ・忙しい中の対応なので要点をわかりやすく、何についてか？など伝え方を工夫する。
- ・失礼のないような対応。
- ・文書で渡しておく、や、比較的空いている時間などに合わせて行くなど。

- ・利用者・家族のたを基本にし、根拠や事実を中心に伝える。
- ・事前に連絡をしたり、アポイントをとる。
- ・簡潔に伝えるように言いたい事をメモし、時間が有効に使われるよう意識している。
- ・忙しい診察時間の中で短く簡潔に話すように心がけている。
- ・手紙を書いて生活の情報を伝えることもある。
- ・「誰のための支援か」ということを考えながら支援している。
- ・医療職は優先順位を支援事業所＞家族＞本人になっていると感じる。
- ・顔の見える関係を作る。
- ・受付でワンクッションにおいて先生のタイミングの良い所で情報共有すること。
- ・利用者本人の思いをしっかりと聞き、その上で医師に伝える。
- ・医師・病院に情報を提供し、治療、転院、入院等していただいた後、結果の報告とお礼をきちりとする。
- ・事前に確認したいことリストを作成してから受診同行するようにしている。
- ・事前に連絡して、どういった事やサービス、病気についてお伝えした上で書類等をお渡ししている。
- ・無駄なく伝えたい、伝えるべき内容が伝わるように気を付けている。
- ・更新、状態の変化があった時は文書を作成して自宅での様子やサービスの利用状況などを情報提供するようにしている。
- ・本人や家族の聞きたい事、知りたい事を確認、理解して医師に伝えられるようにしたいと思う。
- ・教わる姿勢を大切に。
- ・本人を主軸にすること。支援者の「〇〇あるべき」「正論」に偏らない事、本人の暮らしは本人のものであること、疾患を持ちながら本人の受容できるところをまずは大事にすること。
- ・Dr. にまずは顔を覚えてもらうよう通院同行や困ったことは直接相談する。
- ・医師はまだまだ上の存在という認識があり、苦手意識をお互い感じている…ということも相互に理解していく必要があると思った。
- ・簡潔に話す。
- ・苦手意識を持たず、礼儀に注意しながら接していきたい。

以上